第20講

データ型の対処法(2)

論述問題の基本

チャプター1

レクチャー

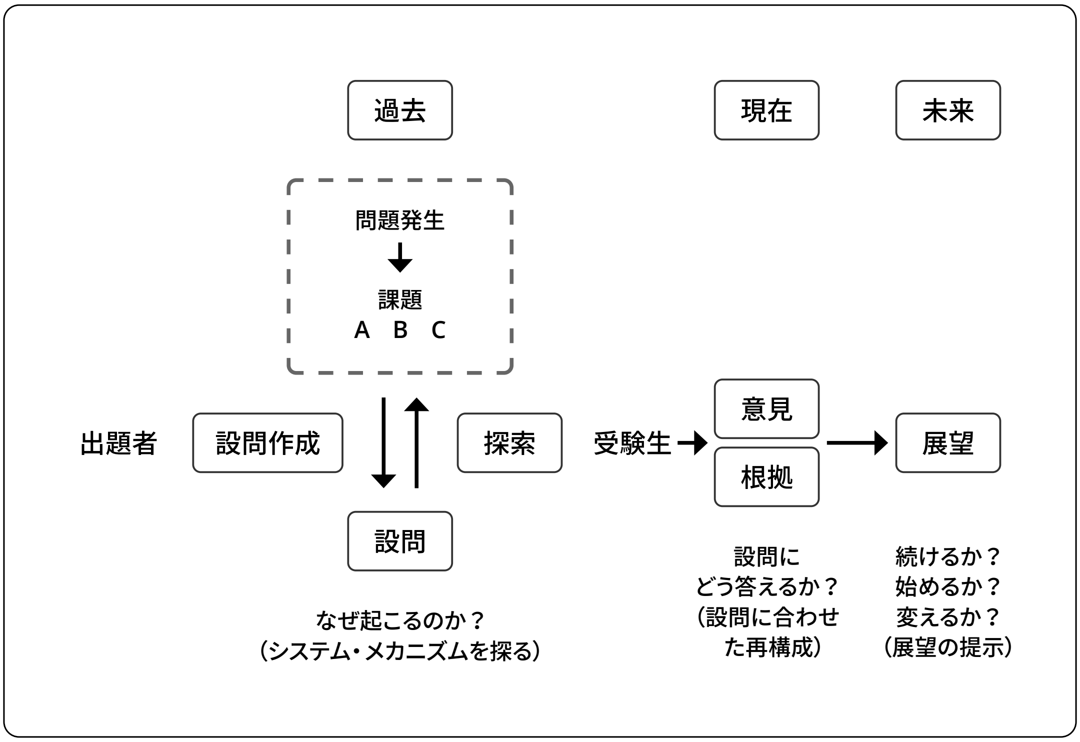
ポイント

　データ型の設問の一つに(　　　　　　　　　　)問題がある。
　(　　　　　　　　　　)とは図表で得られた情報をもとに、自分の主張を論じるものである。
　まずは図表の(　　　　　　　　　　)を把握し、事実関係を把握する。
　そのうえで、図表の(　　　　　　　　　　)がなぜ起こるのか、(　　　　　　　　　　)を自分が得ている事実と掛け合わせながら演繹的に捉えたり、ときには仮説を立てたりしながら(　　　　　　　　　　)を考えよう。
　その上で、今後どのようにすれば善き未来になるか、仮説を立てながら(　　　　　　　　　　)を考えよう。

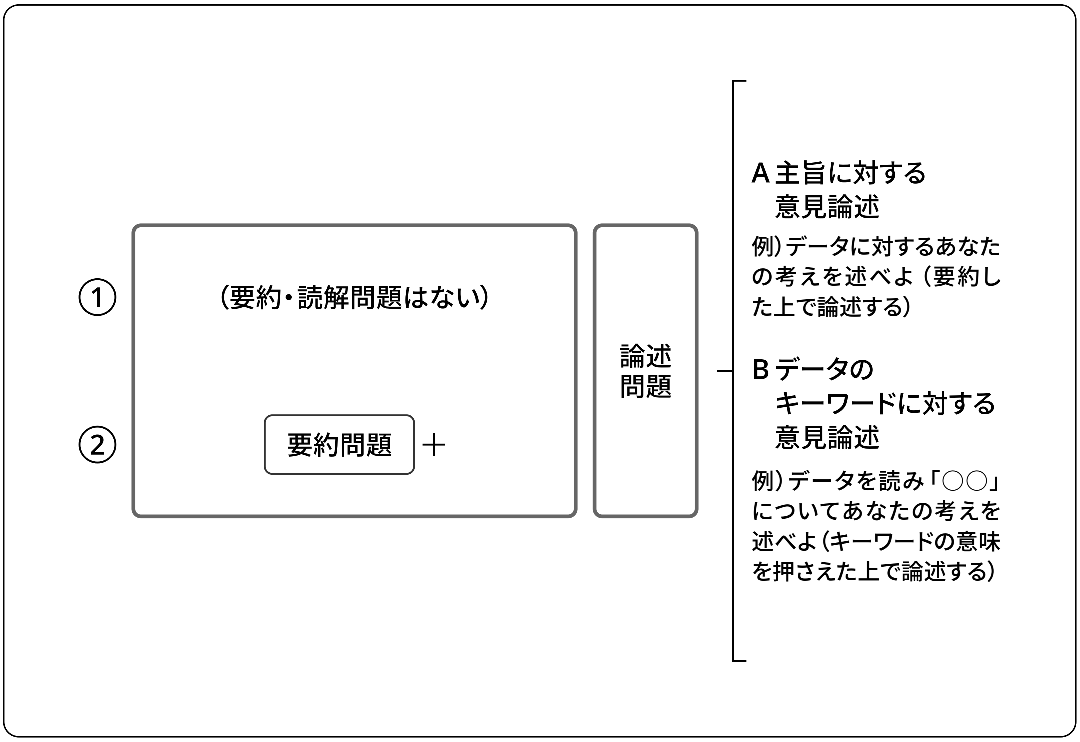
生徒メモ欄

教員記入欄

○ 論述問題出題者の意図



○ 論述問題のイメージ



生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

　SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。17のゴール（目標）と169ターゲットが掲げられています。下記のグラフは17のゴールの情報にアクセスできる国・地域の割合を示したものです。その特徴をまとめた上で、こうした傾向になった要因を考察し、ゴール達成に向けてどのような施策を講じるべきか、あなたの考えを600字以内で述べてください。

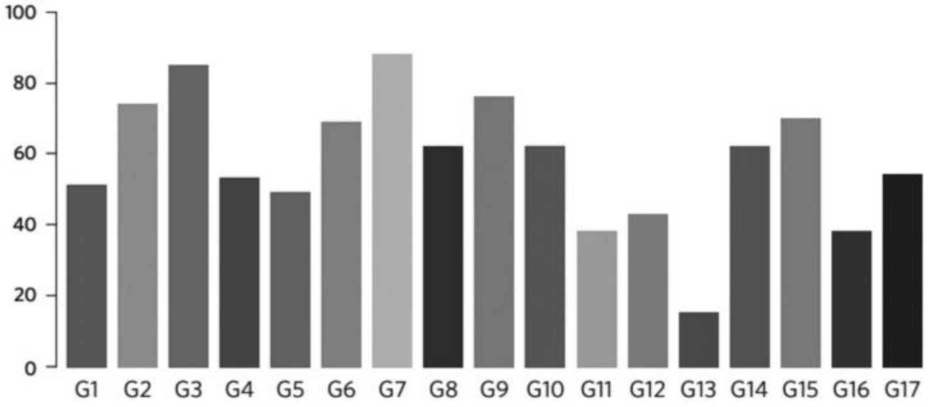
（オリジナル）

出典：https://www.unic.or.jp/files/sdg_poster_ja_2021.pdf

生徒メモ欄

教員記入欄

タイトル：【目標別】データ入手可能な国または地域の割合(%)



Note：本表のデータは、SDGs指標の枠組みや算定方法の変更により、持続可能な開発目標報告書2020のデータと比較することはできません。
SDGsの指標フレームワークは2020年に包括的な見直しが行われ、その結果、指標の置き換え、修正、追加、削除という形で36の大きな変更がありました。

出典：https://unstats.un.org/sdgs/report/2021/，p5

生徒メモ欄

教員記入欄

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

500

600

（　　　　字）

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見(主張)	設問と意見の関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

答案例①

　SDGsの目標の中心ともいえる脱二酸化炭素を考えると、G7が最もアクセス可能な課題である事は当然だろう。他に8割以上の国がアクセスできる課題に、G3がある。しかし「すべての人」に関係する他の課題のG1、G5、G16においては約50%だ。G2は70%以上の国が当てはまるが、貧困と飢餓は密接な関係性を持つ為、G1との間に約20%もの差が開く事は不自然ではないだろうか。6割以上が当てはまる課題にはG6、G8G9、G10、G14、G15がある。これらは人が、暮らす環境を整えることを課題にしているが、現在の資本主義経済をこのまま発展させ、対等な海外貿易関係を築こうという意思表示のように思われる。G10と類似内容であるG1、G5、G16のアクセス数と約10%の差があるのはなぜなのだろうか。G1、G5、G16にあるのは個人の顔である。世界の超富裕層は、全人口の1%にして全資産の37.8%を占め全人口の半分は全資産の2%を保有するに過ぎない。現在の資本主義経済が今後も続く限り、この差が縮小されることはないように思う。よって、環境に配慮しても、17課題のうち改善しない課題もあるのではないかと考える。富の集中を防ぎ、皆が苦しまず暮らしていけるような経済の構築こそが貧困を解消し、飢餓をなくし、不平等を改善していくのではないだろうか。SDGsのゴール達成のためには、富の再分配システムが必要である。

（578字）

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見の関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

答案例②

　このグラフで最も達成率が低いのは、「G13気候変動に具体的な対策を」である。次に低いのは、「G11住み続けられるまちづくりを」である。地球温暖化の進行により、生態系の変化や世界の平均気温の上昇が引き起こされている。各国の環境変化の様相は異なり、かつ気候変動は長い時間をかけて起こるため、15年間で気候変動を解消するのは困難であることが達成率の低い要因と考える。また気候変動による海面上昇で、島国や水辺の街の居住地が沈没し、人々は同じ土地に住み続けることができない。よって、G13が解決しなければ、G11は達成できないと考える。一方で、最も達成率が高いのは、「G3すべての人に健康と福祉を」であり、続いて、「G7エネルギーをみんなにそしてクリーンに」である。発展途上国では、国境なき医師団の活動等により、多くの人が治療を受けられるようになったため、健康な人の割合は増加していくと推測される。太陽光や風力等の自然エネルギーを使った発電は、既に普及が進んでいるので、このまま発展していくことが可能だろう。達成率に差が出る理由は、解決までに要する時間の長さだと考える。医療やエネルギーの問題は、病院や発電所の建設等により早期に解決できるが、気候変動の問題はすぐには解決できない。私は、各国の気候変動を調査研究する専門施設を建設し、多くの研究者が改善のための知恵を出し合えば、目標達成できる国が増えると考える。

(591字)

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下表を用いて自己評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見の関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことをブラッシュアップするために、
おすすめ書籍情報や本の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター6

おわりに

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄

おわりに

この講座では、小論文の基本的なスキルとテクニックを学んできました。そして、これらを学ぶ過程で、小論文の問題を通してさまざまな世界に触れることができたと思います。これらを通して、いま見つめている世界がほんの一部であること、視野を広げるとさまざまな問題や課題が横たわっていること、その解決に向けて自分を世界のどこに位置付ければ善き未来をつくることができるのかを考えることがとても大事だと気づいてほしいと願い、設問を選んだり、つくったりしました。

また、課題に取り組む過程で、学ぶためのスキルやテクニックも得られたのではないでしょうか。さまざま資料を読み、理解し、あなたの意見をどう構築するのか、という営みは、大学などの上級学校では当たり前のように行うことです。ただ、実際にやってみると、それほど大変なことではないと感じたかもしれません。文献に示される一つ一つの事柄が新鮮で、いままで学んだことがないことに触れるたびに、知的好奇心が掻き立てられることも多かったのではないでしょうか。

私はそもそも小論文の世界でよい答案を書く表面的なテクニックを教えても、それは対症療法でしかないし、私が存在する意味はそこには見出せないと感じています。自分自身が世界をつくる一員だと理解し、世界中に横たわる問題や課題を見つめ、解決・行動する力を身につけるのが、学びの本質だと思います。そこを真正面から捉え、「あなたはどういう世界を作りたいのか（未来創造）」とどう接続するのかを徹底的に考え抜くことが、これからの世界を次世代に引き継ぐ我々にとっては最も大事なことです。だからこれまで先人たちが培ってきた知恵を尊重し、さらに歩を進めることが大事だと思っています。

そう捉えると、この講座を受講する前のあなたと、今のあなたは遥かに変わったはずです。取り組む前は、文章を読むのが苦手だったり、文献を探すのに時間がかかったり、慣れない言葉に苦戦したりしたかもしれません。しかし、少し大変だったかもしれないけれど学びに向き合おうというマインドもスキルも備わったことでしょう。世界づくりへの入り口に立つことができた喜びを味わえるのは、小論文の醍醐味なのではないかと思います。

この経験はきっと大学・短大・専門学校や職業人になったときの活動を支えることになりますし、もちろん入学試験等でもあなたにとって大きな自信になるはずです。最後まで取り組んでくれたあなたは、あなたが持つ才能をもとに、きっと世界をつくる人になってくれると信じています。

この講座で養った実力をもとに、全力で小論文の答案作成に挑んでください。きっとあなたにとって素敵な学びとなることでしょう。私も、これからもあなたを応援します。これからもぜひ頑張ってください！

神﨑 史彦

巻末資料① 問題文テーマ・キーワード一覧

講義数	講名	関連キーワード	関連テーマ
第1講	小論文とは何か	印象	自己アピール文、自己とは何か、アイデンティティ
第2講	小論文でどういう力が問われるか	人生 計画的偶発性理論	志望理由、研究計画
第3講	小論文を紡ぐ手順(1) 読む–考える–書く	食文化	ファストフード、スローフード、地産地消
第4講	小論文を紡ぐ手順(2) 設問を「読む」	勉強	学問とは何か
第5講	小論文を紡ぐ手順(3) 内容を「考える」	発明 開発	経済開発、持続可能な開発、都市再開発、開発経済学、豊かさとは何か
第6講	小論文を紡ぐ手順(4) 段落構成を「考える」	ソーシャルメディア	ソーシャルメディア、自己・対人関係、健康、プライバシー
第7講	小論文を紡ぐ手順(5) 原稿用紙に「書く」	18歳選挙権	成人年齢引き下げ、一票の格差、小選挙区制、大選挙区制
第8講	小論文を紡ぐ手順(6) 時間配分を意識する	古典	日本文化の特徴、歴史を学ぶ意味、日本と西洋の対比
第9講	問いの紡ぎ方	スポーツマンシップ	オリンピズム、パラスポーツ、ドーピング、部活動の地域移行
第10講	意見・根拠の紡ぎ方(1) 知識や理論を当てはめる 【演繹】	人工知能	機械学習、ディープラーニング

巻末資料① 問題文テーマ・キーワード一覧

講義数	講名	関連キーワード	関連テーマ
第11講	意見・根拠の紡ぎ方（2） 事例をもとに理論を導く 【帰納】	大人	大人になりきれない大人、 経済的に親から自立できない大人
第12講	意見・根拠の紡ぎ方（3） 対立する物事を批判する 【反論・再反論】	夫婦別姓	改姓の不利益、旧姓通称使用、事実婚
第13講	意見・根拠の紡ぎ方（4） 対立する物事から新しい見識を見出す 【弁証法】	ベビーカー乗車	平等と公平、公正
第14講	展望の構想の方法 知をもとに仮説を立てる 【アブダクション・リトロダクション】	再生可能エネルギー	原子力発電、地政学、地経学
第15講	形式別の基本出題パターン テーマ型・課題文型・データ型	公共性	公共の福祉、個人の利益、プライバシー
第16講	課題文型の対処法（1） 要約問題の基本	部活動 アイデンティティ	部活動の地域移行・外部委託、 エスニック・マイノリティ、 多様性、異文化理解、多文化共生
第17講	課題文型の対処法（2） 読解問題の基本	ジェンダー 教育政策	ジェンダー・アイデンティティ、 ジェンダー規範、ジェンダー役割、 学習指導要領、OECD、 GIGAスクール構想、学びの保障
第18講	課題文型の対処法（3） 論述問題の基本	平和	安全保障、戦争、多民族国家、 外交圧力と国際関係の緊張
第19講	データ型の対処法（1） 要約問題の基本	高齢化 正義	老老介護、医療、 高齢者の孤独死・過疎化、限界集落、 公正としての正義、善、良心
第20講	データ型の対処法（2） 論述問題の基本	黄金律	ESD、ESG、MDGs（ミレニアム開発目標）、 白銀律、白金律

巻末資料②　小論文　ルーブリック

ルーブリックとは、学習の達成度の評価指標を表で示したものです。横軸は評価の観点、縦軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示していますので、評価基準の文章と自分の解答案と照らし合わせ、まずは自分なりに「このあたりはできている(できていない)」という評価をしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどのようなことをする必要があるのかを考え修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

●内容

項目	設問の理解	意見（主張）		理由（根拠）		論理性・簡潔性	
	出題の意図および背景の理解	設問と意見との関係	独自性・独創性・発展性	事実をもとにした論証	重要性・問題性	適切な論理展開	簡潔な記述
評価ポイント	設問内容の理解 ※ 課題文・データ等の読解を含む	① 設問との形式的な呼応 ② 設問との内容的な呼応	① 自分なりに意見を構築する姿勢 ② 意見の視点・手段の独創性 ③ 意見の視点・手段の発展性	① 事実をもとにした論証 ② 主観を排除した事実の取り扱い ③ 総括的な事実認識による論証（断片的な事実認識の否定） ④ 深層的な事実認識による論証（表層的な事実認識の否定）	① 設問やテーマに潜む問題・課題の適切な理解 ② ①の重要性・深刻性の理解と指摘 ③ 第三者や他分野への影響を鑑みたうえでの優先順位付けの有無	① 論旨の逸れのなさ ② 論理の飛躍のなさ ③ 反論の余地のなさ	① 論旨に関係ない記述のなさ ② 冗長な記述の排除
S	設問の内容を十分に理解して論じている。	設問に呼応する意見を示している。	意見に独創性があり、かつ提示している改善策や展望に発展性および具体性がある。	社会的もしくは心理的背景を踏まえ、正しい事実認識をもとに、総括的・深層的な視点で論証を行っている。	設問やテーマに潜む問題・課題を十分に理解し、その様々な分野における影響を鑑みたうえで、他の意見と比べて重要・深刻であるという認識をしている。その上で、意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明している。	論旨が逸れたり、論理が飛躍したりすることなく文章を展開している。かつ、反論の余地がない。	論旨に関係ない記述がなく、言葉を吟味して、無駄なく文章を展開している。

項目	設問の理解	意見（主張）		理由（根拠）		論理性・簡潔性	
	出題の意図および背景の理解	設問と意見との関係	独自性・独創性・発展性	事実をもとにした論証	重要性・問題性	適切な論理展開	簡潔な記述
A	設問の内容をおおよそ理解して論じている。	設問に呼応する意見を示しているように見えるが、実のところ正しく答えられていない。	意見に独創性がある。	社会的もしくは心理的背景を踏まえ、正しい事実認識をもとに論証を行っている。	設問やテーマに潜む問題・課題を理解し、第三者にとって重要・深刻であるという認識のもと、意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明している。	論旨が逸れたり、論理が飛躍したりすることがほぼなく文章を展開している。かつ、反論の余地を極力回避している。	論旨に関係ない記述がほぼなく、論理性に支障がないが、言葉の精選がなされていなかったり、内容が重複して無駄な記述が多かったりする。
B	設問の内容に関する理解が不十分なまま論じている。	設問に関係するテーマで論じているが、設問に呼応していない。	自分なりの考察をもとに、意見を示している。	できる限り主観を排除して事実を取り扱い、正しい事実認識をもとに論証を行っている。	意見を主張する重要性もしくは問題性を理由説明しているが、その重要性・深刻性を理解して述べているとは言い難い。	論旨が逸れている部分はないが、論理の飛躍があり、理由（根拠）が成立しない。	論旨に関係ない記述があるものの、論理性にはほぼ支障がない。
C	設問の内容を理解しているとは言いがたい論述である。	設問に呼応する意見を示しておらず、設問に関係するテーマでも論じていない。	意見を提示しているものの、一般論の受け売り、もしくは類似したものであり、自分で考察したものとは言いがたい。	特殊事例や都合のよい事実をもとに論証しようとしている。もしくは断片的な情報での論証にとどまっている。	理由説明をしているものの、自らの意見の重要性・問題性を論じているとは言い難い。	論旨が大きく逸れており、理由（根拠）が成立しない。	論旨に関係ない記述があるために、論理性に支障をきたしている。
F	設問を理解しているかどうかが判定できない。	設問に対する意見を示しているかどうか、判定できない。	意見が不明確であり、自分で考察しているかどうかが判定できない。	事実をもとに論証しているかどうか、判定できない。	意見の重要性・問題性を論じているかどうか、判定できない。	論理展開が判定できない。	論旨に関係ない記述しかない。もしくは判定できない。

巻末資料② 小論文 ルーブリック

●表記・表現

項目	表記・表現				
	誤字・脱字	段落の設定	制限字数	文体の統一	表現技法
評価ポイント	① 誤字・脱字の有無 ② 漢字かな交じりの表現の有無	意味性のある段落構成	制限字数の厳守	常体の統一	表現技法
S	誤字・脱字がなく、漢字かな交じりの表現もない。	意味性を持って段落を区切っている。	制限字数の９割以上、かつ制限字数をオーバーしていない。	文体を「だ・である」に統一している。	明らかな表現上の不備がない。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用）
A	―	―	―	―	―
B	―	―	―	―	―
C	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が１つおよび2つある。	意味性を持たずに段落を区切っている箇所がある。	制限字数の８割～９割未満である。	―	明らかな表現上の不備が１つおよび2つある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用）
F	誤字・脱字および漢字かな交じりの表現が３つ以上ある。	段落を区切っていない、もしくは段落を区切りすぎている。	制限字数の８割未満、もしくは制限字数をオーバーしている。	文体を「だ・である」に統一していない。	明らかな表現上の不備が3つ以上ある。（呼応表現、句読点、文のねじれのなさ、主語・目的語・述語の無用な省略のなさ、無用な省略語・若者言葉の不使用）